

東京農工大学 農学部附属
広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

平成30年度 活動報告（概要版）

目次

1. FS センター活動概要……………1
2. FS 実験実習……………2
3. 分野別活動概要……………3
 - 1). 資源・物質循環教育研究分野……………3
 - 2). 自然環境教育研究分野……………4
 - 3). 野生動物保護管理教育研究分野……………6
 - 4). 中山間地域農林業教育研究分野……………7
 - 5). 都市型農業教育研究分野……………8

平成30年度 活動報告

1. FSセンター活動概要

農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター（FSセンター）は、首都100km圏に配置された自然林、二次林、農地、都市緑地などの多様なフィールド（フィールドミュージアム：FM）を農学部の教育研究に活用するために、各FMの維持管理を行うとともに、これらの教育利用、研究利用を推進している。FSセンターは、資源・物質循環、自然環境、野生動物保護管理、中山間地域農林業、都市型農業の5教育研究分野から構成され、分野別に活動を行うとともに、FS実験実習等の分野融合の教育研究活動を行った。

<教育研究>

資源・物質循環分野は、FM多摩丘陵における教育・研究活動を推進した。平成30年度にFM多摩丘陵を教育または研究の目的で利用した訪問者は、約1,650名（人・日）であった。特に研究利用が多く、観測鉄塔を活用した大気共同観測のほか、樹木の光合成能力、木質バイオマス、土壌呼吸、土壌からのラドン散逸フラックス、昆虫相など、幅広い分野の研究の実施または支援を行った。

自然環境分野では、学生実習として11の科目を受け入れており、それらの実習に対してサポートした。FM大谷山・FM草木で年間935名（人・日）、FM唐沢山で1,085名（人・日）の利用があった。外部機関からは、東京大、中央大、筑波大による調査研究利用、日本植生（株）による現地講習会としての利用などがみられた。卓越大学院プログラムの予算により、6地点の気象観測装置の購入および教育研究紹介のための林内用看板40枚が作成された（両方とも設置は次年度持ち越し）。長期モニタリングの支援（サンプル回収）として、水文・水質観測（FM大谷山、1978年～）とハリガネムシ調査（FM草木、2016年～）を行った。

野生動物保護管理分野では、実習教育の実施担当のほか、大学公開講座の開催、動物園・教育機関と連携した教育研究活動、短期留学生（韓国）実習などを展開した。国際家畜感染症防疫研究教育センターとの共同事業では、客員教員（麻布大学教授・落合秀治氏）をFM津久井に継続して配置した。共同獣医学科・動物行動学研究室の協力を得て、FS実験実習を基礎にした生物多様性の教育と研究を実施した。野生動物保全学実習も一部津久井で実施した。

中山間地域農林業分野では、各種講義および実習を担当し、さらに自治体および市民団体開催の講習会を後援した。なお、令和元年度をもって養蚕事業を終了することとした。

都市型農業分野のFM府中およびFM本町における利用者数は、合計約8500名（人・日）（内訳はFM府中：約5000、FM本町：約3500）、このうち外国人利用者は7か国以上（ドイツ、ポーランド、モンゴル、ミャンマー、中国、ガーナ、アフガニスタンなど）約300（人・日）であった。利用目的の中心は、本学の学生および教員による実習、研究および学外機関との共同研究などである。近隣の幼稚園、保育園の園児、市やNPO法人が主催する市民講座の参加者なども多い。

実習は生物生産学科をはじめ4学科の実習(8科目)を実施した。研究に関しては、作物の栽培技術に関するテーマ、農耕地の環境測定、家畜の飼養、繁殖技術に関するテーマなどフィールドを利用した幅広い研究を実施、支援した。

<管理・運営>

資源・物質循環分野では、FM多摩丘陵施設の通常管理・運営のほか、観測鉄塔の点検・整備、研究棟の整備(清掃、消防点検、給水タンクバルブの更新等)を行った。再雇用契約による非常勤職員1名(週4日)に加え、非常勤職員(産官学連携研究員)1名(週1~2日)を雇用して、平日は職員が常駐する体制を整え、管理・運営にあたった。また、客員教授(電力中央研究所・高橋章氏)を雇用して、分野の教育研究を充実させた。

自然環境分野では、FM大谷山管理棟・宿泊棟の女子トイレ大便器の改修工事を実施した。平成30年9月30日の台風24号通過に伴う降雨と強風により、FM大谷山ではスギ・ヒノキ約40本の倒木が、FM草木では林道を妨げる倒木(10か所程度)と路面洗掘が発生した。FM唐沢山では、栃木県の森林環境保全整備事業補助金を利用して間伐を実施した(約5.5ha)。また、実習が始まる前(7月)に不具合が多かった宿泊棟給湯器を交換した。

野生動物保護管理分野では、診療施設(府中)の管理に任期1ヶ月未満の非常勤職員(いわゆる出面アルバイト)を継続雇用して対応した。この施設では動物を継続して飼育しているため、雇用の確保が不可欠である。FM津久井には前述のとおり、国際家畜感染症防疫研究教育センターとの共同事業として客員教員(麻布大学教授・落合秀治氏)を引き続き配置した。また、共同獣医学科・動物行動学研究室の協力による生物多様性の教育と研究を加えて利用の拡大をはかった。野生動物保全学実習の一部を津久井で継続実施できる形を整えた。

中山間地域農林業分野では、引き続き島田 順名誉教授(参与)に養蚕活動をご担当いただいた。FM津久井の管理運営等の通常業務については、1名の常勤技術職員が担当した。

都市型農業分野は、FM府中、FM本町の2FMにまたがり、10名の技術職員によって畑作、野菜、果樹、畜産(酪農)、農産加工、水田作などの各係を管理運営している。今年度、畜産係および農畜産加工係の充実を目指し、それぞれ4名および2名の技術職員を配置した。また、それ以外の係においても、それぞれ業務改善を検討し、運営を行った。その結果、FM津久井を除いた農場の収入は約2600万円で、前年度に比べて約300万円程度増加した。支出に関しては節約に努めたが、緊急に修繕が必要な設備などが多く、支出が膨らんだ。一方で、卓越大学院の予算により92馬力のトラクター(クボタ)が購入され、管理・運行はFSセンターが行うこととなった。今後は、FSセンターも卓越大学院の教育研究の一翼を担うことになる。

2. FS 実験実習

FS センターの各フィールドミュージアムを活用して、生物多様性の維持・農業生産と資源の持続的利用・環境教育を基本テーマとする実験実習を3コース（森林コース、里山コース、農耕地コース）に分かれて実施した。

履修者は、生物生産学科、環境資源科学科、地域生態システム学科から集まり、計47名であった。各コースの開講期間、場所は以下のとおり。

森林コース

- ・9/9(日)～9/14(金)
- ・FM 唐沢山、FM 大谷山、FM 草木

里山コース

- ・9/3(月)～9/7(金)
- ・FM 多摩丘陵、FM 津久井

農耕地コース

- ・6/8(金)～6/10(日)、8/2(木)～8/3(金)
- ・FM 府中、FM 津久井

3. 分野別活動概要

1) 資源・物質循環教育研究分野

(1) 活動概要

資源・物質循環分野では、東京西部郊外域に位置する FM 多摩丘陵を活用した教育研究を実施している。FM 多摩丘陵は、府中キャンパスから比較的アクセスが良く、大気観測設備が充実している等の特徴があり、実習、卒業研究、研究プロジェクトなどで利用されている。特に研究利用が多く、資源・物質循環分野にとどまらない幅広い分野において、学内だけでなく学外の研究者からも活発な利用がなされている。

平成30年度に FM 多摩丘陵を教育または研究の目的で利用した訪問者は、約1,650名（人・日）であった。研究利用として、観測鉄塔を活用した大気共同観測（以下詳細）のほか、樹木の光合成能力、木質バイオマス、土壌呼吸、土壌からのラドン散逸フラックス、昆虫相などの研究が実施された（研究利用12件）。平成30年度利用に関する学位論文は13件（学士10件、修士3件）、学術論文は4件あった。

● 大気共同観測

FM 多摩丘陵の森林内に設置してある観測鉄塔を活用し、大気と森林間の物質循環について、大気沈着、大気化学、水循環、炭素循環、窒素循環、土壌化学等のアプローチによる総合的な観測を実施した。

- ・ガス・エアロゾル成分の沈着フラックス（東京農工大学・松田研究室）
- ・エアロゾル個数粒径分布（福島県立医科大学、帝京科学大学）
- ・二酸化炭素・顕熱・潜熱フラックス（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

- ・オゾン・窒素酸化物の濃度プロファイル（帝京科学大学）
- ・ブラックカーボン濃度（北海道大学工学部）
- ・林内雨・林外雨・土壌浸透水成分等（北里大学）

(2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS 実験実習を除く）：

- ・環境資源科学実習 A（楊 宗興，半 智史，松田和秀）
- ・環境資源科学実験 IV（楊 宗興，梅澤 有）
- ・樹木学実習（小池伸介，他）

地域貢献事業（松田和秀）：

- ・環境省 越境大気汚染・酸性雨対策検討会 委員
- ・大気環境学会 常任理事（国際交流委員長）
- ・日本学術会議 IGAC 小委員会 委員
- ・全国環境研協議会 酸性雨調査研究部会 有識者
- ・Asian Journal of Atmospheric Environment 編集副委員長

(3) FM 別事業・管理

<FM 多摩丘陵>

これまで同様、平成 30 年度も教育・研究に関する多くの利用がなされた。特に、大気観測に関わる研究で活発な利用がなされ、外部資金（科学研究費補助金基盤研究 B、鉄鋼環境基金一般研究助成）の助成による研究も行われた。また、客員教授（電力中央研究所・高橋章氏）を雇用して、分野の教育研究を充実させた。今後、さらなる研究グループの拡大化や外部資金獲得に積極的に取り組み、FM 多摩丘陵の研究利用を推進していく。

管理運営のための体制として、再雇用契約による非常勤職員 1 名（週 4 日）に加え、非常勤職員（産官学連携研究員）1 名（週 1～2 日）を雇用して、平日は職員が常駐する体制を整えた。非常勤職員（産官学連携研究員）の人件費は、FM 多摩丘陵運営費だけではまかなえないため、外部資金も使用した。今後、この管理運営体制を維持できるよう検討を行っていく必要がある。

2) 自然環境教育研究分野

(1) 活動概要

自然環境教育研究分野では、持続的な木材生産体系を教育研究に活かすことに加え、森林の生物多様性について長期の研究が進められるよう、各森林系 FM の基盤を整備してきた。FM 唐沢山を里山型の都市近郊林として、FM 大谷山と FM 草木を人工林の生産体系の主力として、FM 草木と FM 秩父を豊かな自然の深山型の森林として、森林系 FM を舞台に循環型の資源活用と生物多様性に関する教育研究を実施している。

平成 30 年度に森林系 FM を教育または研究の目的で利用した訪問者は、FM 大谷山・FM 草木で年間 935 名（人・日）、FM 唐沢山で 1,085 名（人・日）であった。外部機関からは、東京大、中央大、筑波大による調査研究利用、日本植生（株）による現地講習会としての利用などがみられた。

卓越大学院プログラムの予算により、6 地点の気象観測装置の購入および教育研究紹介のための林内用看板 40 枚が作成された（両方とも設置は次年度持ち越し）。

(2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習（FS 実験実習を除く）：

- ・ 育林学実習（Rn）：FM 大谷山、FM 草木（戸田浩人、崔東寿）
- ・ 樹木学実習（Rn）：FM 草木（小池伸介、赤坂宗光、渡辺直明）
- ・ 山地保全・砂防計画学実習（Rn）：FM 大谷山、FM 草木（五味高志、白木克繁）
- ・ 地域生態システム学実習 I（Rn）：FM 草木（土屋俊幸、赤坂宗光、松本武、崔東寿）
- ・ 森林保護・樹木医学実習（Rn）：FM 草木（小池伸介、渡辺直明、吉田智弘、永石憲道）
- ・ 森林土壌学実験・実習（Rn）：FM 草木（戸田浩人、吉田智弘）
- ・ 森林計画学実習（Rn）：FM 草木（土屋俊幸、加用千裕）
- ・ 森林生産システム学実習（Rn）：FM 唐沢山（岩岡正博、松本武）
- ・ 山地測量学実習（Rn）：FM 唐沢山（白木克繁）
- ・ 森林実習（En）：FM 草木（佐藤敬一、渡辺直明、吉田智弘）

地域貢献事業としては、FM 唐沢山と佐野市環境政策課と共催で「とちぎの元気な森づくり支援事業」の一環として、環境教育プログラムを 6/3、8/19、10/14 の年 3 回実施した。これには学生や博物館のサークル団体の協力を得て事業を進めた。

社会貢献

法政大学生命科学部非常勤講師（渡辺）

樹木医 CPD プログラム認定審査部会委員（日本緑化センター・渡辺）

（国指定天然記念物）山高神代桜樹勢回復検討委員会委員（山梨県北杜市・渡辺）

（ 〃 ）根古屋神社の大けやき樹勢回復検討委員会委員（山梨県北杜市・渡辺）

（ 〃 ）善養寺影向のマツ保存指導委員会委員（東京都江戸川区・渡辺）

（ 〃 ）石戸蒲ザクラ保存検討委員会委員（埼玉県北本市・渡辺）

（ 〃 史跡）角館のサクラ保存管理協議会専門委員（秋田県仙北市・渡辺）

(3) FM 別事業・管理

<FM 草木・FM 大谷山>

FM 草木では、JaLTER 関連の主要な調査地である 7 林班ほ小班に設けた固定調査地では、毎木調査とリタートラップによるデータの収集、計測を行った。FM 大谷山管理棟・宿泊棟では、女子トイレ大便器の改修工事を実施した。平成 30 年 9 月 30 日の台風 24 号通過に伴う降雨と強風により、FM 大谷山ではスギ・ヒノキ約 40 本の倒木が、FM 草木では林道を妨げる倒木（10 か所程度）と路面洗堀が発生した。災害発生後、林道については、職員が倒木撤去と復旧をおこなった。

<FM 唐沢山>

栃木県の森林環境保全整備事業補助金を利用して間伐を実施した(約 5.5ha、9 林班へ小班)。また、実習が始まる前(7月)に不具合が多かった宿泊棟給湯器を交換した。

<FM 秩父>

モニタリング業務として、毎月、気象データなどの記録回収を行った。

3) 野生動物保護管理教育研究分野

(1) 活動概要

附属施設の役割りとして重要な実習教育については、FS 実験実習以外に 6 科目の実施を担当した。同じく開設が期待されている公開講座については、継続開催の 2 講座(子供身近な動物教室、実演・実習 高校生のための野生動物学講座)のほか、好評の幼稚園ミニ遠足を新たに公開講座に位置づけた。活動基盤としては動物園や教育機関と連携した日常運営の充実が不可欠であり、診療施設の管理には任期 1 ヶ月未満の非常勤職員(いわゆる出面アルバイト)を雇用して対応している。

なお、研究面での成果は、指導学生自身に筆頭著者として印刷公表させることを基本原則としている。

(2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習(講義・演習および FS 実験実習を除く):

- ・地域生態システム学実習Ⅱ(鈴木馨・武田)後期集中 1 単位(横浜市繁殖センターほか)
- ・生物学実験(金子・鈴木馨)前期分担 1 単位(動物の形態)
- ・実験動物学実習(田中あかね・鈴木馨ほか)後期分担 1 単位(動物の取り扱いほか)
- ・比較行動学実験・実習(武田・鈴木馨)前期集中 1 単位(上野動物園ほか)
- ・野生動物保全学実習(金子・鈴木馨)前期集中 1 単位(FM 津久井ほか)
- ・野生動物救護学Ⅰ(鈴木馨)前期一部集中 1 単位(横浜市繁殖センターほか)

公開講座:

- ・子供身近な動物教室(鈴木馨)、主催
東京農工大学と地域を結ぶネットワーク事業:継続事業
東京農工大学教育研究振興財団協賛
- ・実演・実習 高校生のための野生動物学講座(鈴木馨・武田・佐藤俊・小山)、
主催
継続講座
東京農工大学教育研究振興財団協賛
- ・獣医さんごっこで優しさづくり-幼稚園ミニ遠足-(鈴木馨)、主催
団体扱い

地域貢献事業：

- ・東京都野生鳥獣保護協力大学
- ・横浜および川崎市立動物園との日本産野生動物の保護治療に関する共同研究
- ・幼稚園・小学校飼育動物ドクター
東京農工大学と地域を結ぶネットワーク事業：継続事業
東京農工大学教育研究振興財団協賛

その他：

- ・府中市商業施設「ル・シーニュ」公共スペース 小学生・親子科学体験教室（鈴木馨）、
電通企画
- ・子ども夏休みミニ自然学校 わくわく生きもの探検隊（鈴木馨）
川越市公民館
- ・短期留学生（韓国）実習（鈴木馨）
- ・国際家畜感染症防疫研究教育センターとの共同事業（FM 津久井）
- ・共同獣医学科・動物行動学研究室の協力による生物多様性の教育と研究（FM 津久井）

(3) FM 別事業・管理

<FM 津久井>

FS 実験実習での活用のほか、国際家畜感染症防疫研究教育センターとの共同事業については客員教員（麻布大学教授・落合秀治氏）を継続して配置した。共同獣医学科・動物行動学研究室との共同事業に着手した。野生動物保全学実習の一部を津久井で継続実施できる形を整えた。

<FM 府中>

東京都野生鳥獣保護協力大学については、過年度から継続の保護飼養および新規持ち込み事例への対応を行っている。横浜および川崎市立動物園との共同研究は、教育研究上必要な症例を安定的に確保し、活発な活動を展開している。教育研究成果も豊富である。幼稚園・小学校飼育動物ドクターは継続事業で、好評である。診療のみでなく、幼稚園などと活発に交流している。支援している幼稚園の卒園式に来賓として招かれたことは大きな喜びであった。

4) 中山間地域農林業教育研究分野

(1) 活動概要

養蚕とブルーベリーの栽培を中心に活動した。養蚕は春および晩秋に実施し、生産した繭の一部を教育研究用の材料として本学科学博物館へ提供した。桑園の剪定、施肥、除草管理が順調に行なわれた。桑葉を安定供給するために新桑園の整備を継続中である。ブルーベリーは管理を徹底した結果収量が増加した。これらの果実を FM 府中にてジャム加工し、販売を開始した。FM 津久井におけるサツマイモ栽培を本格化するため、試験栽培を開始した。

(2) 実習・公開講座・地域貢献事業

実習

- ・TAT 地学実験（渡邊 泉）5月13～14日

地域貢献

- ・相模原市との連携協定に基づく協力事業（ブルーベリージャム加工等）
- ・日本ブルーベリー協会主催「ブルーベリー剪定講習会」後援

(3) FM 別事業・管理

<FM 津久井>

神奈川県相模原市との連携協定に基づき、ブルーベリーを活用した地域事業を後援した。今後は地域住民向けの公開講座や講義を実施する予定である。

5) 都市型農業教育研究分野

都市型農業教育研究分野では、農場の圃場および施設を利用して、水稻、畑作物、果樹等の栽培技術、乳牛の飼養技術・繁殖技術、害虫制御技術等に関するテーマについて、専任教員が指導する学部、修士課程、博士課程の学生が研究を実施した。また、学内外の研究室・機関が実施する圃場試験等に対して支援を積極的に進めた。具体的には、水田から発生する温室効果ガスの継続的な観測、水稻用の流し込み肥料の開発、小麦用新規殺菌剤の効果評価試験などを実施した。また、「根圏ケミカルワールドの解明と作物頑健性制御への応用（CREST 課題：代表、杉山暁史京大准教授）」の圃場試験を実施した。

FM 府中および FM 本町を利用した実習としては、生物生産学科（2科目）、応用生物科学科（1科目）、地域生態システム学科（2科目）、獣医学科（3科目）の実習科目が開講された。

地域貢献に関しては、公開講座1件、府中市内のNPO法人が実施する事業の支援（配布用ゴーヤ苗、花壇苗の生産、田んぼ学校支援など）を行った。

都市型農業教育研究分野における研究

○卒論・修論など

- ・ツツジ科果樹の低投入持続型栽培技術の確立を目的として、ツツジ科植物の根系に特異的に共生する菌類（エリコイド菌根菌）に関して修論・博論のテーマとして検討を継続している。
- ・赤色系統のブルーベリーの着色メカニズムに関する研究
- ・マコモタケの栽培技術に関する研究を継続して行った。
- ・ダイズ圃場への大麦リビングマルチの導入によるハスモンヨトウとその天敵の動態に関する研究を行った。
- ・多収性水稻品種のころび型倒伏抵抗性に関する研究を実施した。
- ・乳牛の繁殖に関する研究を継続して行った。

○学内外研究者との共同研究

- ・水田を発生源とする温室効果ガスの長期モニタリング研究（明治大学との共同研究）
- ・水田に生息する水生昆虫に対する箱施用剤の影響評価
- ・多収性水稲品種の直播栽培技術に関する研究
- ・水稲の有機栽培用液肥の開発に関する研究（朝日工業受託研究）
- ・小麦および大豆の湿害対策に関する研究
- ・福島復興支援プロジェクト（バイオ肥料を利用した超多収性水稲の直播栽培に関する研究）

(2) 実習・公開講座・地域貢献事業

農場関連実習（FS 実験実習を除く）：

- ・生物生産学科フィールド実験実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史，非常勤講師 1 名）
- ・生物生産学科農業分野専攻実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史，非常勤講師 2 名）
- ・生物生産学科学外（農家）実習（本林 隆）
- ・応用生物科学科農場実習（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）

- ・地域生態システム学科農場実習Ⅰ（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ・地域生態システム学科農場実習Ⅱ（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ・地域生態システム学科地域生態システム学実習Ⅰ（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）
- ・地域生態システム学科地域生態システム学実習Ⅱ（本林 隆，伴 琢也，杉村智史）

公開講座：

- ・実習で学ぶ農業教室（本林・伊藤・柳澤・清水・小林・小松・坂本・相田・樋口）
- ・東京農工大学で梨のお話と収穫体験（伴・乃万）

地域貢献事業

- ・府中市グリーンカーテンプロジェクト：ゴーヤ苗受託生産（本林・清水）
- ・認定 NPO 法人府中 PFS「花を育てよう」事業：花壇苗受託生産（本林・清水）
- ・認定 NPO 法人「府中かんきょう市民の会」主催“たんぼの学校”：支援（本林・松川）

(3) FM 別事業・管理

<FM 府中>

<野菜>

実習計画を中心に作付を実施し、一作品目を除き生産物は夢市場販売に供した。生物生産学科1年次学生を対象にアクティブラーニング圃場を設定し、前期は果菜類（トマト、キュウリ）、後期は根菜（ダイコン）の栽培実習を行った。

夢市場の常時開設に合わせて後期からは多品目生産を心掛けた。

<畑作>

飼料作物の栽培を中心に作付け計画を立てた。具体的には、夏季収穫のデントコーンの栽培

面積を増やし、播種を早め、8月中旬までに収穫を行った。その結果、生産量は大幅に増加した。しかし、秋収穫のデントコーンは台風の被害を受け、生産量は少なかった。また、乾草用の牧草はイタリアンライグラスの作付け面積を増加させたこと、二番草の収穫を実施したことで、生産量が増加した。また、冬季の乾草不足を補うため、実験的に秋からエンバクを栽培し、年明けに収穫したところ、上手くいった。さらに、エンバクとイタリアンライグラスの混播も試したところ、こちらも上手くいったことから、次年度はこの栽培体系を取り入れたい。

<果樹>

ブルーベリー、ナシ、カキ、キウイを中心に実習教育を実施し、生産物は生果販売と加工用に供した。干し柿の増産、キウイフルーツ生果の保存性向上など、販売機会の均平化に取り組んだ結果、今年度の予定収入を上回っただけでなく次年度当初の販売物を確保した。ナシ等の交配用に飼養しているニホンミツバチのハチミツが商品として定着したことと、蜜蝋を精製してクリームに加工したものを新製品として販売したことも収入向上に結び付いた。果樹園圃場内で地域特産品として普及が進められている数種の野菜類(辛味ダイコン他)の試作を始めた。

<畜産>

年間総乳量は 70.165kg で、森永乳業への販売および乳酸菌飲料、アイスクリームなどの加工用に供した。和牛仔牛 1 頭、交雑種仔牛 2 頭、ホルスタイン種 2 頭を出荷して 133 万円の収入を得た。昨年度から搾乳頭数の回復に努めているものの予定頭数にまでは及ばなかった。その理由は、全国的な牛生体価格の高騰により、新たな乳用牛の導入を断念せざるを得なかったためである。そのため、原乳出荷量は予定量を上回ったものの粗収入は 783 万円にとどまった。円滑な教育研究を実施するための頭数を確保するには、定期的な個体の入れ替えを含め、牛群全体の更新を実施する必要がある。粗飼料の生産量は作付・作業体系の見直しによって大幅に向上しており、引き続き後継牛の確保と外部からの乳用牛導入に努めていく。また、今年度もフスマや米ヌカ等の安価なエコフィードを利用することで飼料費の節減につなげることができた。

<農畜産加工>

他係と連携してアイスクリーム、乳酸菌飲料、味噌、ジャム、漬け物の加工実習を計画通り実施した。消費者ニーズおよび夢市場での毎日販売に対応するため、ジャム 2 種、アイスクリーム等乳製品の増産を強化した。これらの製品を学科説明会、学園祭等のイベント販売に提供したことで好評を得るとともに収入の向上につながった。FS センターの機能改革と連動した製品開発を求められている中で、今年度は共同研究スペースに設置された製粉機を利用して桑の葉茶パウダーを製造・試験販売したほか、パウダーを加工し添加する方法で桑茶アイスクリームを試作し、その販売準備を整えた。その他の取り組みとして、青果物の廃棄ロスに向けた漬物の製造、味噌加工実習の副産物である麴の利活用として甘酒の常時製造など、シーズ側面からの商品製造に取り組んだ。一方で、軽作業の多様化と増加にどのように対応していくかが課題となり、実習教育と連携した製品製造や研究成果を取り入れた商品の開発をさらに進める必要があると考えられた。

なお、花卉係は廃止したが、府中市教育委員会および NPO 法人府中 PFS との協働事業「府中市グリーンカーテンプロジェクト」および「花を育てよう事業」は継続して実施した。

<FM 本町>

管理実績からもわかるように、多くの圃場が実習と実験のために利用されており、収入は少ないものの、教育・研究に対して一定の貢献をしている。

昨年度と同様に夏季から秋季にかけて天候が不順であったが、水稻（ウルチ・モチ）の収量は例年とほぼ同等であった。